

平成27年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成27年1月30日

上場取引所 東

上場会社名 日本ライフライン株式会社

コード番号 7575 URL <http://www.jll.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 鈴木 啓介

問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役管理本部長

(氏名) 政次 浩二

TEL 03-6711-5200

四半期報告書提出予定日 平成27年2月13日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成27年3月期第3四半期の連結業績(平成26年4月1日～平成26年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年3月期第3四半期	18,859	3.7	1,365	5.3	1,486	2.3	743	11.3
26年3月期第3四半期	18,187	10.7	1,296	154.6	1,453	144.4	667	101.5

(注) 包括利益 27年3月期第3四半期 766百万円 (8.6%) 26年3月期第3四半期 705百万円 (87.4%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年3月期第3四半期	68.80	—
26年3月期第3四半期	61.80	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
27年3月期第3四半期	31,164	15,123	48.5
26年3月期	28,932	14,626	50.6

(参考) 自己資本 27年3月期第3四半期 15,123百万円 26年3月期 14,626百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年3月期	—	0.00	—	25.00	25.00
27年3月期	—	0.00	—	—	—
27年3月期(予想)	—	—	—	25.00	25.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成27年3月期の連結業績予想(平成26年4月1日～平成27年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	25,749	5.7	1,751	43.6	1,800	34.7	903	—	83.68

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	27年3月期3Q	11,302,497 株	26年3月期	11,302,497 株
② 期末自己株式数	27年3月期3Q	500,578 株	26年3月期	500,541 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	27年3月期3Q	10,801,951 株	26年3月期3Q	10,801,956 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期連結財務諸表に対する四半期レビュー手続が実施中です。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料4ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	5
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	5
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	5
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	5
3. 継続企業の前提に関する重要事象等	5
4. 四半期連結財務諸表	7
(1) 四半期連結貸借対照表	7
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	9
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	11
(セグメント情報等)	11
(重要な後発事象)	11
5. 補足情報	12
(1) 生産、受注及び販売の状況	12

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

(売上高について)

当第3四半期連結累計期間の当社グループといたしましては、昨年4月に実施された保険償還価格の改定により、当社が取り扱う商品全般にわたり価格が引き下げられるなか、販売数量の増加により商品単価の下落へ対応するとともに、新商品の市場への浸透に注力することにより売上高の拡大を図ってまいりました。

こうしたなか、EP/アブレーションおよび外科関連におきましては、新に販売を開始したオンリーワン商品がいずれも高い評価を得ており、急速に市場へ浸透したことに加え、既存商品も堅調に推移していることから、前年同期に比べ売上高が増加いたしました。その一方で、リズムデバイスにおきましては、新商品の導入が他社に比べ遅れていることから、前年同期に比べ売上高が減少いたしました。

以上により、当第3四半期連結累計期間の売上高は188億5千9百万円（前年同期比3.7%増）となりました。

品目別の販売状況は以下のとおりです。

<品目別売上高>

(単位：百万円)

区分	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)	増減率
リズムデバイス	5,238	3,138	△40.1%
EP/アブレーション	6,590	8,404	27.5%
外科関連	3,435	4,526	31.8%
インターベンション	2,020	1,923	△4.8%
その他	903	866	△4.0%
合計	18,187	18,859	3.7%

※各品目区分に分類される主たる商品は以下のとおりです。

リズムデバイス	心臓ペースメーカ、ICD（植込み型除細動器）、CRT-D（除細動機能付き両心室ペースメーカ）
EP/アブレーション	EP（電気生理用）カテーテル、アブレーションカテーテル、心腔内除細動カテーテル、高周波心房中隔穿刺針
外科関連	人工血管、オープンステントグラフト、ステントグラフト、人工心臓弁、人工弁輪、人工心肺関連商品
インターベンション	バルーンカテーテル、ガイドワイヤー、血管内異物除去用カテーテル
その他	血液浄化関連商品

(リズムデバイス)

心臓ペースメーカ関連におきましては、昨年8月より発売した、夜間の呼吸の異常を推測することが可能な心臓ペースメーカ「REPLY200（リプライ200）」の拡販に努めたものの、MRI（磁気共鳴画像）検査に対応した商品の導入が他社に比べ遅れていることから、前年同期に比べ販売数量が減少いたしました。また、当社におきましても、本年3月にMRI対応商品の販売開始を予定していることから、導入に向けた準備を進めてまいります。

また、ICD（植込み型除細動器）関連におきましては、厳しい競争環境を反映し、販売数量が前年同期に比べ減少いたしました。

以上により、リズムデバイスの売上高は31億3千8百万円（前年同期比40.1%減）となりました。

(EP/アブレーション)

EPカテーテルにおきましては、心房細動のアブレーション治療の症例数増加を背景として、引き続きオンリーワン製品である心腔内除細動システムの普及が進み、その専用カテーテルである「BeeAT（ビート）」の販売数量が増加いたしました。

また、同じくオンリーワン商品であり、一昨年5月より販売を開始した高周波心房中隔穿刺針「RFニードル」につ

きましても、従来の手技に比べ安全性が高く、多様な症例への対応が可能であることから、医療現場への浸透が進んでおります。

以上により、EP/アブレーションの売上高は84億4百万円（前年同期比27.5%増）となりました。

(外科関連)

人工血管関連におきましては、昨年7月に発売したオープンステントグラフト「J-Graft（ジェイ・グラフト）オープンステントグラフト」の販売数量が伸長いたしました。オープンステントグラフトは、胸部大動脈瘤の人工血管による治療をより低侵襲で行うことができるため、医療現場における需要が高まっております。さらに、カテーテルを用いて胸部大動脈瘤の治療を行う胸部用ステントグラフト「RELAY PLUS（リレイ・プラス）」の販売数量が増加するとともに、既存の人工血管につきましても堅調に推移したことから、人工血管関連の売上高は前年同期比60.5%の増加となりました。

また、人工弁関連におきましては、人工弁輪「MEMO 3D（メモ・3D）」の販売数量が前年同期に比べ増加したものの、生体弁「Mitroflow（ミトロフロー）」は競合製品の影響により、販売数量が減少いたしました。

以上により、外科関連の売上高は45億2千6百万円（前年同期比31.8%増）となりました。

(インターベンション)

バルーンカテーテルにおきましては、昨年4月に発売した自社製品である「canPass（キャンパス）」および、9月に発売した「Pantera LE0（パンテラ・レオ）」が、順調に販売数量を伸ばしました。

また、ガイドワイヤーにおきましては、末梢血管用の製品の販売数量が増加した一方、主力である冠動脈用の製品につきましては、競合製品の影響により販売数量が減少いたしました。

さらに、昨年3月より発売した貫通用カテーテル「Guideliner（ガイドライナー）」の販売数量が増加いたしました。本商品は冠動脈においてガイドワイヤーの通過部を確保する際等に用いるカテーテルであり、独自の構造により手技の効率化を可能とすることから、高い評価を得ております。

以上により、インターベンションの売上高は19億2千3百万円（前年同期比4.8%減）となりました。

(その他)

連結子会社で販売する血液浄化関連商品等の、その他の売上高は8億6千6百万円（前年同期比4.0%減）となりました。

(損益について)

①営業利益

保険償還価格の引き下げがマイナス要因となった一方で、収益性の高い自社グループ製品の売上構成比が上昇したことから、売上総利益率は前年同期に比べ1.7ポイント改善いたしました。その一方で、自社製品の開発費用および商品導入に係る薬事関連の費用が増加していることに加え、前年同期には連結対象外であった子会社3社が前期末より連結対象となっていることから、販売費及び一般管理費が前年同期に比べ増加いたしました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間における営業利益は13億6千5百万円（前年同期比5.3%増）となりました。

②経常利益

受取利息及び為替差益をはじめとする営業外収益を1億9千8百万円、支払利息等を営業外費用として7千7百万円計上いたしました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間における経常利益は14億8千6百万円（前年同期比2.3%増）となりました。

③四半期純利益

小山ファクトリーの用地取得に対する助成金等を、特別利益として5千5百万円計上した一方で、固定資産除却損3千2百万円、投資有価証券評価損3千5百万円等をはじめとする特別損失を、1億2千7百万円計上したことから、当第3四半期連結累計期間における四半期純利益は、7億4千3百万円（前年同期比11.3%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(連結貸借対照表に関する分析)

①資産

当第3四半期連結会計期間末の資産につきましては、流動資産が前連結会計年度末に比べ22億4百万円増加し、216億7千5百万円となりました。これは主として、受取手形及び売掛金が8億1千4百万円、たな卸資産が8億5千9百万円増加したことによるものであります。

また、固定資産は前連結会計年度末に比べ2千7百万円増加し、94億8千9百万円となりました。これは主として有形固定資産が3億4千4百万円減少した一方で、投資その他の資産が4億5百万円増加したことによるものであります。

以上の結果、資産合計は前連結会計年度末から22億3千1百万円増加し、311億6千4百万円となりました。

②負債

当第3四半期連結会計期間末の負債につきましては、流動負債が前連結会計年度末に比べ23億7千9百万円増加し、114億7千4百万円となりました。これは主として支払手形及び買掛金が19億5千7百万円、短期借入金及び1年内返済予定の長期借入金が、新規借入及び長期借入金からの振替により、11億1千1百万円増加したことによるものであります。

また、固定負債は前連結会計年度末に比べ6億4千4百万円減少し、45億6千6百万円となりました。これは主として長期借入金が約定返済及び1年内返済予定の長期借入金への振替により5億8千4百万円減少したことによるものであります。

以上の結果、負債合計は前連結会計年度末から17億3千5百万円増加し、160億4千1百万円となりました。

③純資産

当第3四半期連結会計期間末の純資産につきましては、前連結会計年度末に比べ4億9千6百万円増加し、151億2千3百万円となりました。これは主として剰余金の配当を2億7千万円実施したこと、及び、四半期純利益を7億4千3百万円計上したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

業績予想につきましては、売上高は概ね計画通りに進捗しているものの、MRI（磁気共鳴画像）対応ペースメーカーの販売開始に若干の遅れが生じていること、また販売費及び一般管理費におきまして、一部の経費予算の執行が遅れていること等から、平成26年10月24日に公表いたしました平成27年3月期通期の業績予想から変更はありません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

(税金費用の計算)

連結子会社は、法人税等の算定に当たり、税金等調整前四半期純利益に見積実効税率を乗じて算定する方法によっております。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

「退職給付に関する会計基準」(企業会計基準第26号 平成24年5月17日。以下「退職給付会計基準」という。)及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日。以下「退職給付適用指針」という。)を、退職給付会計基準35項本文及び退職給付適用指針第67項本文に掲げられた定めについて、第1四半期連結会計期間より適用し、退職給付債務及び勤務費用の計算方法を見直ししておりますが、これによる計算方法の変更はなく、当第3四半期連結累計期間の税金等調整前四半期純利益に与える影響はありません。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等

該当事項はありません。

4. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,853	1,752
受取手形及び売掛金	6,935	7,750
有価証券	405	406
たな卸資産	9,106	9,965
繰延税金資産	388	217
その他	782	1,584
貸倒引当金	△0	△0
流動資産合計	19,471	21,675
固定資産		
有形固定資産	6,220	5,876
無形固定資産		
のれん	132	97
その他	31	34
無形固定資産合計	164	131
投資その他の資産		
その他	3,189	3,586
貸倒引当金	△113	△104
投資その他の資産合計	3,076	3,481
固定資産合計	9,461	9,489
資産合計	28,932	31,164
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,450	3,407
短期借入金	4,270	4,770
1年内返済予定の長期借入金	723	1,334
未払金	857	829
未払法人税等	830	124
賞与引当金	31	345
その他	932	662
流動負債合計	9,094	11,474
固定負債		
長期借入金	2,418	1,834
長期未払金	295	158
繰延税金負債	14	17
役員退職慰労引当金	285	293
退職給付に係る負債	1,683	1,766
その他	513	496
固定負債合計	5,211	4,566
負債合計	14,306	16,041

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,115	2,115
資本剰余金	2,328	2,328
利益剰余金	10,508	10,981
自己株式	△351	△351
株主資本合計	14,600	15,073
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	37	44
為替換算調整勘定	49	57
退職給付に係る調整累計額	△60	△51
その他の包括利益累計額合計	26	50
純資産合計	14,626	15,123
負債純資産合計	28,932	31,164

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)
売上高	18,187	18,859
売上原価	8,668	8,662
売上総利益	9,519	10,196
販売費及び一般管理費	8,222	8,831
営業利益	1,296	1,365
営業外収益		
受取利息	13	10
受取配当金	3	1
業務受託料	—	30
為替差益	129	69
負ののれん償却額	2	—
その他	64	86
営業外収益合計	212	198
営業外費用		
支払利息	27	31
その他	28	46
営業外費用合計	55	77
経常利益	1,453	1,486
特別利益		
固定資産売却益	0	0
投資有価証券売却益	65	—
補助金収入	—	55
特別利益合計	66	55
特別損失		
減損損失	25	43
固定資産除却損	14	32
投資有価証券評価損	96	35
工場移転費用	21	—
その他	8	16
特別損失合計	165	127
税金等調整前四半期純利益	1,354	1,414
法人税、住民税及び事業税	656	597
法人税等調整額	30	74
法人税等合計	686	671
少数株主損益調整前四半期純利益	667	743
四半期純利益	667	743

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	667	743
その他の包括利益		
其他有価証券評価差額金	38	6
為替換算調整勘定	—	7
退職給付に係る調整額	—	9
その他の包括利益合計	38	23
四半期包括利益	705	766
親会社株主に係る四半期包括利益	705	766

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

当社及び連結子会社の営む事業は医療用機器の製造及び販売業であり、また、主な販売先は国内に所在しております。当社及び連結子会社の構成単位のうち、分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が経営資源の配分の決定及び業績を評価するために定期的に検討を行う対象として報告セグメントとすべきものはありません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

5. 補足情報

(1) 生産、受注及び販売の状況

①生産実績

当第3四半期連結累計期間における生産実績を商品区分別に示すと次のとおりであります。

区分	前第3四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日)
	金額(百万円)	金額(百万円)
EP/アブレーションカテーテル類	2,285	2,803
外科関連	305	372
インターベンション	264	395
その他	541	632
合計	3,397	4,204

(注) 1 金額は製造原価によっております。

2 上記金額には、消費税等は含まれておりません。

3 インターベンションの増加については、前連結会計年度末より心宜医療器械(深圳)有限公司を新規に連結の範囲に含めたことによるものであります。

②受注実績

当社グループの事業形態は、原則として受注残高が発生しないため、記載を省略しております。

③販売実績

当第3四半期連結累計期間における販売実績を商品区分別に示すと次のとおりであり、著しい変動はありません。

区分	前第3四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日)
	金額(百万円)	金額(百万円)
リズムデバイス	5,238	3,138
EP/アブレーション	6,590	8,404
外科関連	3,435	4,526
インターベンション	2,020	1,923
その他	903	866
合計	18,187	18,859

(注) 上記金額には、消費税等は含まれておりません。